【登録有形文化財（建造物）】

# 岡山県庁本庁舎本館、議会棟旧館、西庁舎

（１）所 在 地　　岡山市北区内山下

（２）所 有 者　　岡山県

（３）概　　要

岡山県庁本庁舎本館、議会棟旧館及び西庁舎は、建築家・前川國男による設計である。

**本庁舎本館**は、前川が手掛けた最初の庁舎建築である。1957 年竣工、地上９階、地下１階の鉄骨鉄筋コンクリート造。前川の師であるル・コルビュジエが提唱した「近代建築の五つの要点」をすべて備える。

構造の大きな特徴は中央部２層分の床を持ち上げてピロティとしている点で、ピロティ上部から回廊がコの字状に北側に突出し、建築の内と外を繋ぐ空間を創出している。長大な平面形と、中央に突出したピロティ形式の回廊デザインが独創的。回廊は玄関庇の役割を果たしながら、奥を見通せる広大なアーケードとなり、回廊手摺の穴開きのホロー・ブリックとも相俟って開放的なアプローチを演出している。

外観は、黒いカーテン・ウォールとコンクリート打放し仕上が特徴的で、橙色の特殊ホロー・ブリックがアクセントとなっている。

**議会棟旧館**は、1957 年に本館と一体で議事堂として竣工。地上３階、地下１階の鉄筋コンクリート造。

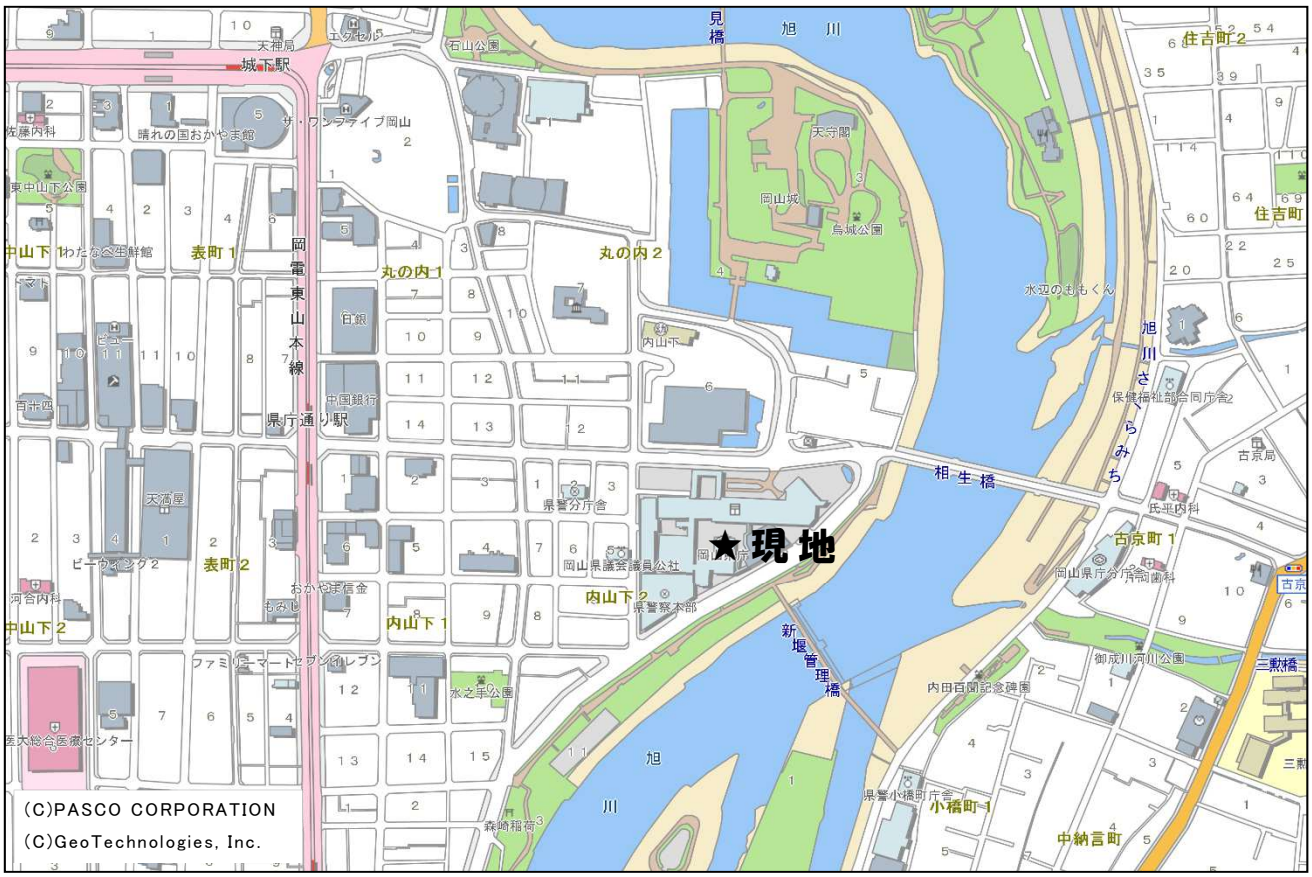
本館と議会棟は渡り廊下で結ばれ、外部空間から内部空間へ流れるように続く平面計画が特徴。建設当初から一筆書きに配置された３階バルコニーのホロー・ブリックは、低層に抑えられた建物の水平方向の外観美を際立たせている。

**西庁舎**は、1971 年竣工。地上５階、地下１階の鉄筋コンクリート造。地上１階部分はエントランスホールを除いてピロティとし、中央には地下通路の入り口が開口している。

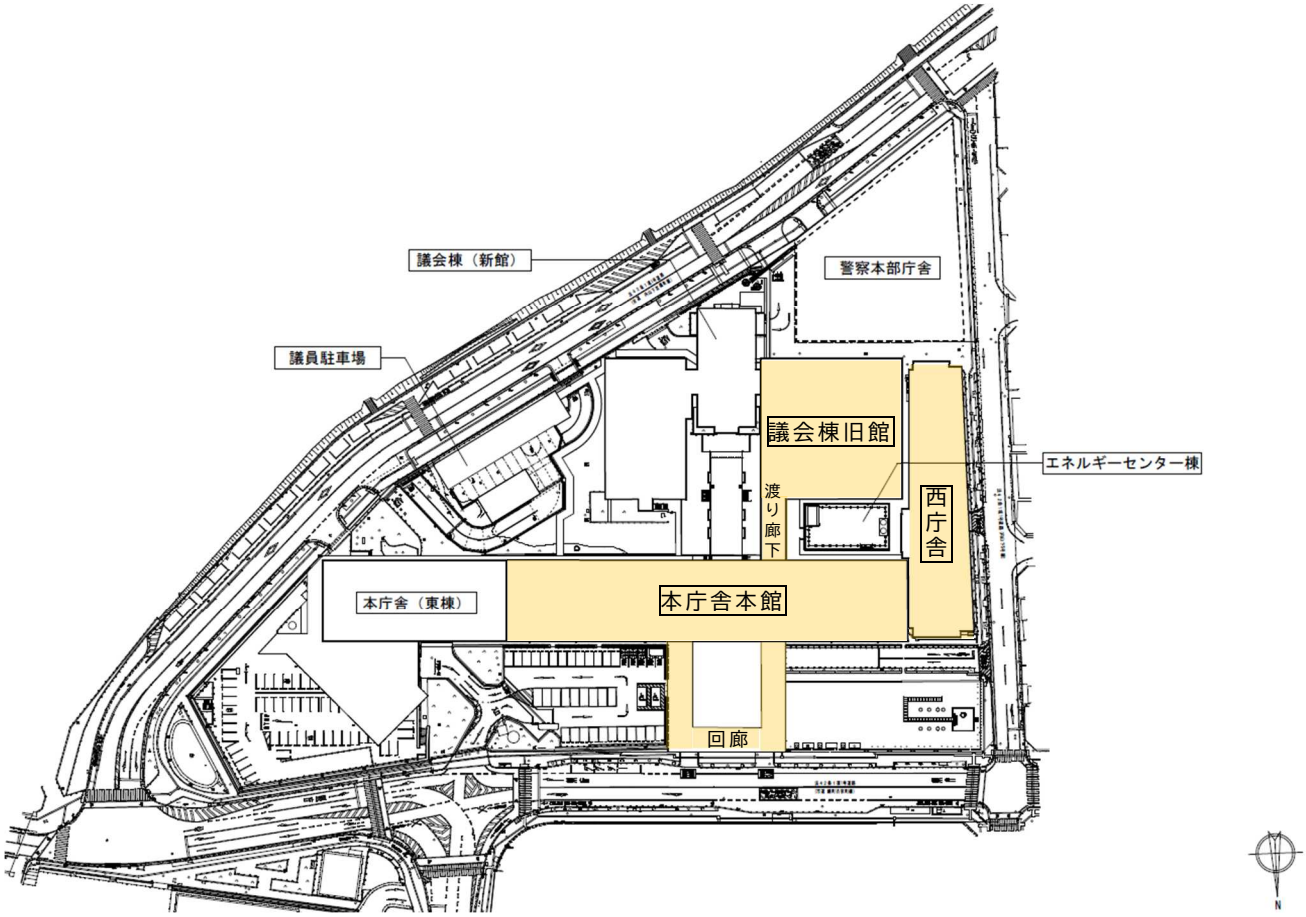
外観は、コンクリート打ち放し仕上が構造美を際立たせる。「水平連続窓」を具備しており、彫りの深いバルコニーは、垂直方向の方立と水平方向の手摺りが、コンクリートで表現された意匠性の特徴を引き立たせている。シンプルでモダン。本館のカーテン・ウォールとの対比が印象的である。

このように、本庁舎、議会棟及び西庁舎から構成される岡山県庁舎は、戦後民主主義の建築化及び大規模庁舎におけるモダニズム建築の実現という面で、極めて高い建築の歴史的、文化的価値を有するものと認めることができる。

（4）登録基準　　二　造形の規範となっているもの




位置図（おかやま全県統合型 GIS より）




配置図

①本館及び西庁舎
北西面

②本館北面
カーテン・ウォール、回廊及びピロティ

③本館南面及び渡り廊下
ピロティから中庭への繋がり

④本館南面
カーテン・ウォール、コンクリート打放し仕上の柱など

⑤ホロー・ブリック

⑥特殊ホロー・ブリック

⑦議会棟旧館　南西面

⑧西庁舎　北西面

※写真①～③・⑤・⑥は上土井信行撮影

【用語解説】

・前川國男(まえかわくにお 1905～86)：1928 年東京帝国大学建築学科卒業後、渡仏してル・コルビュジエの下で２年間修業する。帰国後、レーモンド事務所に勤め、1935 年自らの事務所を設立。戦前、帝室博物館等のコンペで落選覚悟で近代建築的な作品を応募し、戦後は日本相互銀行本店(1952)等で技術を前面に押し出した「テクニカル アプローチ」を主張するなど、日本の近代建築の発展に大きく貢献した。他の代表作としては、紀伊国屋書店(1947)、日本住宅公団晴海高層アパート(1958)、東京文化会館(1961)、東京海上ビルディング本館(1974)、東京都美術館(1975)、西洋美術館新館などがある。（出典１）
岡山県内の作品は、岡山県庁舎、林原美術館、天神山文化プラザ。

・ル・コルビュジエ：フランスの建築家、画家。近代建築の五つの要点を指摘して、近代建築への姿勢を固める。東京の国立西洋美術館を設計するなど、国際的に幅広い活躍を続けた。（出典１）

・近代建築の五つの要点（近代建築の五原則）：ル・コルビュジエが提唱した新しい時代の建築形態の標準。(1)ピロティ、(2)水平連続窓、(3)自由な平面、(4)自由な立面、(5)屋上庭園。

・ピロティ：建物を支持する独立柱が並ぶ吹放ちの空間。地上階を自動車や外部歩行者の動線に開放するためにル・コルビュジエによって提唱されたもの。（出典１）

・ホロー・ブリック：本館、東棟、渡り廊下、議会棟旧館の３階に設けられている孔の開いた中空レンガ。焼物であることから、コンクリート素材のブロックと区別して、ブリックと呼ぶ。神奈川県立図書館建設のために開発されたもので、孔の奥行きを大きくし日差しを遮るだけでなく、内部を釉掛けにし、光を反射させることによって室内に採光を届ける工夫が施されている。前川國男が設計した他の施設でも多く採用されている。

・特殊ホロー・ブリック：本館の外装材の一部に使用されている。橙色を基調とし、外観のアクセントになっている。焼物を外装材に用いることに挑んだ前川國男は、目地から浸入した雨水を排出するために、最下部には受皿型のレンガを配置する工夫を施した。威風のあるカーテン・ウォールとは異なり、温かみのある色合いで、庁舎の雰囲気を和らげている。

・カーテン・ウォール：近代建築において、構造体としての骨組の前面に空間区画のために設けられる薄い壁。従って、煉瓦造や石造の壁面のように荷重支持の機能を持たない。その材質は金属パネル、ガラスブロック、プレキャストコンクリートなど多様であるが、この方式によって全面ガラス張りの建築も可能となり、近代建築の相貌が一変した。（出典１）

・モダニズム：近代主義。一般的には、既成の価値や秩序に基づく世界に抗して、近代科学や合理主義に基づく新たな世界を支持しようとする姿勢をいうが、建築の上では、ウィーンゼツェッシオン、バウハウス、CIAM などの活動を経て国際様式が確立されてくるモダンムーブメント(近代運動)の流れ、及びその延長線上にある動向を指すこととなる。（出典１）

出典１　彰国社編 1993 『建築大辞典第２版』　彰国社